



第50号
平成31年3月発行



報告

第39回NPO博多の風フォーラム

「タイムも注目する福岡(九州)を

もっと元気にしよう」



報告

第17回博多のおいしゃんと歩こう
追い山笠コース探訪

報告

第18回
あつまれ楽文コンテスト表彰式

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください
<http://hakanokaze.jp>

平成29年

- 4月 第38回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:平井 彰(NPO博多の風副理事長・事務局長)
(一社 九州経済連合会 常務理事 事務局長)
- 6月 第16回 追山コース探訪 開催
第17回 楽文コンテスト 開催
- 11月 第17回 楽文コンテスト表彰式 開催

平成30年

- 5月 第39回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:前田 恒明(住友商事九州株式会社 取締役社長)
- 6月 第17回 追山コース探訪 開催
第18回 楽文コンテスト 開催
- 11月 第18回 楽文コンテスト表彰式 開催

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakanokaze.jp
URL <http://hakanokaze.jp>

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
 - ・博多の風フォーラム開催
 - ・広報誌・HP発行
 - ・毎日新聞世論フォーラム公聴
 - ・作文コンクール(楽文コンテスト)開催
- 地域環境向上事業
 - ・博多の町親交
(清掃活動・クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
 - ・書籍出版
 - ・博多祇園山笠の振興
 - ・追山コース探訪開催
- 協力事業
 - ・各市民団体との情報交換及び支援



NPO博多の風フォーラム 「タイも注目する福岡(九州)をもっと元気にしよう」

去る平成30年5月19日、第39回NPO博多の風フォーラムが大原保育医療専門学校福岡校5階会議室にて開催されました。今回は住友商事九州株式会社取締役社長である前田恒明氏に登壇いただき、「タイも注目する福岡(九州)をもっと元気にしよう」としてタイ駐在時代の話や、現在のタイと九州についての話をいただきました。



前田 恒明 (まえだ つねあき)
住友商事九州株式会社 取締役社長
1957年5月25日 佐賀県佐賀市出身
1980年慶應義塾大学法学部卒業後、
住友商事株式会社入社、金属事業部門
鉄鋼第二本部 薄板貿易第二部参事
(シンガポール、マレーシア駐在)、
鉄鋼第一本部長(東京)、アジア総支配人
補佐(タイ駐在)、タイ住友商事会社社長、
スミ・タイ・インターナショナル会社社長を
歴任し、2016年4月から現職。

■5年間のタイ駐在

駐在していた5年間でタイでは実に様々な事件・出来事がありました。その中でも、日本でも大々的に報じられた大洪水・反政府運動クーデターに関し、私の経験を交えてお伝えいたします。2011年10月に大洪水がありました。250万世帯560万人が被害を受け、3000人が亡くなりました。また、日系企業420社が冠水しました。日本では天災として報道されていましたが、実はタイの洪水は年中行事なんです。毎年、北部のアユタヤ中心に洪水となり、平均50人前後が亡くなっています。ただその水が南下してバンコクに至るといふことは従来ありませんでした。タイは農業が重要な国でGDPに占める農業の割合は8%と低いのですが、農業人口は33%と多く、これが大きな票田となり政治と深い関係性を持っています。そこで政

府は干ばつを避けるため乾期はダム貯水量を70%に保っています。しかし2011年のインフラック首相はこれを90%に上げてしまいました。それで10月に雨期に突入すると水が通常より多く溢れてきたのです。通常はこの水を川から海へと流す調整をするのですが、この時は上手くいかず、水が工業団地、特に日本企業が密集する地域に流れてその後バンコク市内まで及んだのです。このような調整が利かなかつたことからこの大洪水は天災ではなく人災だったといわれています。この洪水は、津波のように短時間で押し寄せるのではなく、じわじわと忍び寄ってきました。いよいよバンコクに来るとなった時、住友商事グループの社員はホテルに集めてなんとか通常業務にあたらせました。タイ人のスタッフには会社近くのアパートを押さ

えて家族の皆さんに住んでいただきました。バンコク市内では水が20〜30cmまで上がり、その後40cmまでなると車が動かなくなり空港が閉鎖されます。そうなるとタイが陸の孤島となり経済的なダメージが計り知れなくなってしまうのですが、その瀬戸際ギリギリの所でなんとか収まりました。その後外国企業の多くが撤退していききましたが、日系企業の多くは残りませんでした。その理由としてはタイでの日系企業の筆頭であるトヨタ・タイが私どもは撤退しませんでした。と早々に宣言したことに、他の日系企業も残ることを余儀なくされたのです。ただ、このことが日系企業がタイの政府に相当な評価をされることにつながったと考えられています。

2013年11月からは当時のインフラック首相退陣を求めた反政府デモが2014年5月まで6か月に及んで続き、警察とデモ隊との衝突があり約30名の犠牲者を出しています。その時のバンコク市内はスピーカーを持ったデモ隊の列が延々とつながっていると聞いた感じでした。厳戒令が敷かれており20時以降は外に出られません。一番打撃を受けたのは日本のレストランです。タイには2500もの日本のレストランがありますが、1900店がバンコクにあり、閉店した店も多かったようです。一方、タイの富裕層のデモに対する見方はいたって冷静なものでした。ある富裕層に話を聞いたところ、タイでは過去80年間で20数回同じようなことが起こっており、心配しなくてもタイは良い方向へ向かうよと大きく構えていました。その後2014年5月22日のクーデターを迎え、インフラック政権は倒され、陸軍の大將が暫定政権を作り首相となって今に至っています。クーデター

の3日後の5月25日、くしくも私の誕生日だったのですが、クーデターを起こした陸軍大將から陸軍司令部へ呼び出されました。命の保証もなく、軟禁状態も覚悟して面談に臨みましたが、大將は「日本の方々の生命と財産は責任を持って守ります。私は日本が好きです。日本食も大好きです。早く日本の旨い酒と日本食を食べたいです。タイを一刻も早く正常に戻すために日本の皆さんの協力が必要です。」と話されました。そして、タイにおける足元および中長期の経済状況の見通しについても話され、我々にとっても驚いたのを感じていました。その後はタイも大きな政変もなく、経済も順調に伸びております。クーデター史上、直後に日本人の代表として民間人が面談することから、タイが日本人・日本企業を重視していることがとてもよく

分かります。

■タイの現況と九州・福岡への熱視線

タイの経済発展は第一段階の農業分野から戦後の天然資源や安価な労働力を有効に使った軽工業の第二段階で低所得国から中所得国へと成長を遂げました。80年代後半から現在までの第三段階では重工業分野に注力した経済政策を行い、外資企業を呼び込んできました。この第三段階で一番貢献したのが日本です。そして今タイが目指しているのが、「タイランド4.0」と呼ばれる第四段階です。これは今後20年以内に先進国入りを目指すというタイの国家

戦略であり、デジタルエコノミーを目指し、次世代の産業を外資誘致をてこに育成していくことに重点をおいています。バンコク東部の3県を投資優遇地の「東部経済回廊」としインフラ整備も進めていく方針です。また、外国人専門家への優遇措置として所得税の軽減策を打ち出しています。こういった戦略を掲げるタイですが、実は九州・福岡に熱い視線を送っています。この10月にタイ総領事館が福岡に開設されますが、それに先立ち観光事務所と貿易センターも開設されますし、2月9日には福岡でタイ投資セミナーが開催されタイの要人総勢40名が来日しました。会場には九州・福岡の経済界より800名が参加し大いに盛り上がりを見せました。ちなみに、私はパネルディスカッションのモデレーターとして参加しました。ではなぜタイは福岡に注目しているのでしょうか。

その理由はソムキット副首相の想いが深く関わっています。彼はタクシン首相時代に商務大臣を務められた有名な方で、20年ほど前にタイの州知事約70名を連れて大分県を訪れ農産品ブランドのノウハウを持ち帰り実績をあげたといわれています。日本にも20回以上訪れており、福岡にも10数回足を運んでいます。日本の産業・マーケットに非常に精通しており日本のマーケットを題材にした本も執筆されています。ソムキット副首相は「福岡は先進的な工場や産業が集積している。農業も高度に発達しておりタイ発展のお手本だ」とまで発言しており、ちなみにタイと九州のGDPはほぼ同じで50兆円となっています。そんなタイが誘致したい企業は大手企業だけではなく、技術を持った中小企業・スタートアップ企業についても注目しています。中小企業がタイに進出するのはそう簡単なことではありませんが、最大限政府がサポートするとまでいわれています。このタイの注目度の高まりは福岡の地場企業にとってもグローバルビジネスのチャンスとも言えます。タイが日系企業の投資先として相対的に最適であることは私の駐在経験からも十分に実感しております。福岡には技術ポテンシャルを持った中小企業が多く存在しており、総領事館の開設により両国間の交流が進み様々なサポート機能も期待できます。

我々の目指す姿は地域への貢献であり、地場ならではのビジネスの種をみつけ地場企業さまと一緒に育てる種を育て、案件によっては本社人材を活用し、グローバル展開を図りそれを地場に還元させていただくことを希望しています。(中略)

タイが熱い視線を九州に向けている通り、九州の地場産業のポテンシャルは我々が考えている以上に魅力があると捉えられています。住友商事九州は石垣島での電動スクーターシェアリング事業や次世代型の再生可能エネルギー活用「未来の工場」プロジェクトなどその他多くの事業をここの九州で展開させていただいており、今後も引き続き、地場の独立法人ならではの特色を活かして、九州・福岡の発展に微力ながら貢献していきたいと考えております。



た。会場には九州・福岡の経済界より800名が参加し大いに盛り上がりを見せました。ちなみに、私はパネルディスカッションのモデレーターとして参加しました。ではなぜタイは福岡に注目しているのでしょうか。その理由はソムキット副首相の想いが深く関わっています。彼はタクシン首相時代に商務大臣を務められた有名な方で、20年ほど前にタイの

九州・福岡に根を張り、地域経済のグローバル化を地場企業とともに進めていただいている前田社長。我々NPO博多の風も九州・福岡・博多の魅力を引き続き発信していきたいと改めて感じた機会となりました。(大浦晴彦)

告知
第40回 NPO博多の風フォーラム 開催のご案内
■日時:平成31年4月20日(土) 開場:12:30/開演:13:00 ■場所:大原保育医療福祉専門学校 福岡校 5階大教室
講師:戸谷 弘一氏 福岡県警察 博多警察署長 警視正
演題:「博多の町が持つ防犯力」
※ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、ご参加ください。多数の方のご参加をお待ちしています。

報告 第17回 追い山笠コース探訪

博多の
おいしやんと
博多を歩く。



昨年6月3日に17回目となる追い山笠コース探訪を開催。新聞での案内やホームページへの掲載、そして情報番組を通じ広く参加を呼びかけました。

当日は9時に冷泉公園に集合。理事長と副理事長、博多警察署の戸谷署長が挨拶。世話人からの注意事項連絡を済ませたのち、10班に分かれた参加者と当番法被に身を包んだ博多の風のおいしやんが次々と博多の町に歩き出していきました。



戸谷署長



①冷泉公園



②山留め



③櫛田神社



④東長寺



⑤聖福寺



⑥ごんどう通り

【女性 広島県出身】
新聞を読んで、博多の街の歴史話を聞きながら歩いてみるのも良いかと思い、参加しました。実際に参加をしてみても、浜口公園付近などには普段歩く事もないので、初めて知ることばかりで良かったです。山笠は、1度櫛田神社の棧敷席にて見た事があり、とても感動しました。



⑦沖濱稻荷神社

【女性 行橋市在住】
山笠が博多の街を駆ける姿は、テレビでしか見たことがなく、博多の街の歴史をしてみるもの良いと思いい参加をしました。「日田祇園祭」や「唐津くんち」は見たことがありますが、博多の山笠は山の飾りが他の祭りの人形よりも綺麗と感じました。今度、追い山を見に来たいと思います。

【男性 福岡市出身】
2017年7月15日の追い山の日初めて山笠を見ました。承天寺前で見ていましたが、男達のこわばった顔からピリピリとした気合いが伝わってきて、山笠について興味を持ちました。そんな折に、新聞で今回の募集を見かけた為、博多の歴史についても知れると思いい参加をしました。



⑧15日廻り止め

【女性 那珂川町在住】
博多で生まれ、聖福寺の付近に住んでいましたので、山笠も身近な存在で幼い頃からよく見ておりました。現在は、那珂川町に在住しておりますが、博多の町が年々変わっていても、聖福寺の前を通る度に昔の頃を思い出し、懐かしい気持ちにさせられます。やっぱり山笠は、いいですね。

報告 第18回 楽文コンテスト表彰式

平成30年11月18日(日)開催
会場 博多小学校 表現の舞台

7月から9月の募集期間に、福岡市内外の小中学校から約1500通の応募があった18回目の楽文コンテスト。すべての作品に目を通し、1次選考から4次選考を経て、博多の風、行部や後援・協賛いただいた企業・団体の方にも協力頂きながら、作品を選ばせていただきました。家族や友達のこと、お祭りや夢中になっていることなど、「君が大好きなこと」について書いた作品で、子供らしい活き活きとした作文や、大人では気付かない視点での文章など、読み応えのある作品がそろっていました。11月18日に開催された表彰式では、優秀作品の表彰と、各賞代表の方の作品発表を行いました。

応募作品数 約1,500通

応募校数 48校
協賛・協力 19社

選考期間 3ヶ月
のべ選考員数 30人



来風人



幹事紹介
今長谷創太さん(30歳)
 NPO博多の風 広報事業担当
 ■職業: 会社員
 ■土居流 川口町

■山笠との出会い

私は大学時代、学生相撲をやっていました。中学はソフトテニス、高校では帰宅部でしたが、大学では縁あって相撲を始めることとなりまりました。相撲の稽古を一緒に行っていた社会人の方が土居流川口町で若手頭をされており、この方がきっかけで山笠に参加することとなりました。私が参加し始めたのが二十歳の時からですので、昨年は10回目の山笠でした。

大学を卒業した後、東京に本社を置く石油掘削の会社に就職しました。石油掘削という仕事柄、海外での仕事が多々あり、7月の山笠への参加を続けてきました。そんな中、山笠にもっと貢献したいとの思いで3年前に福岡の企業に転職しました。川口町では、一昨年より赤手拭をいただきました。山笠を始めた当初、赤手拭は雲の上のような役職でし

た。それから私自身、まだまだ未熟なところはありますが、山笠に対するこだわりや自信を持てることも増えてきましたので、なごう層、山笠に貢献できるように頑張ります。また昨年末、無事に長男が生まれ、妻と息子の三人で暮らしています。昨年は、息子にも川口町の法被を着せることができ、山笠に出ている人間としては、大変うれしい経験をさせていただきました。これからは、息子の成長を楽しむとともに、一緒に山笠に精進したいと考えています。

■追い山笠コース探訪について

初めて山笠に参加させてもらった平成21年から追いまわし山笠コース探訪のお手伝いをさせてもらっています。初めは一般で参加される方と同様、山笠や博多の街への知識は乏しく、先輩方の説明で勉強させてもらう立場でした。山笠に参加し始めて4〜5年の頃は、山笠の昇手として自分が付く一番棒の話や道中の出来事のみしかすることができませんでした。歴史のことにしても勉強し、一昨年から

らはコース探訪を通して、グループの皆様全体にメインでお話しさせていただいています。まだまだ知識不足のこと、不手際などありますが、今後とも知識を蓄えていきたいと思っています。前回の探訪の中で、以前ご案内させていただいたお客様とまたま同じグループとなり、「今長谷さん、赤手拭になりんしゃったとね。おめでとう。」と声をかけていただいたときは非常に光栄でした。

■幹事会について

NPO博多の風では、毎月1回、幹事会を行っています。私は若手のころから、この幹事会に手伝いとして参加させていただいています。この中で、先輩方に対する気の使い方や、動き方などを学ばせてもらっています。博多の町で生まれ育ったわけではない私にとつて、幹事会は博多の町に育ってもらういい機会となつていっているように感じます。博多に住まわれている方は、当然のように毎日顔を合わせているのですが、博多外にいる私にとって、幹事会はその雰囲気を感じることが出来ます。

また、幹事会では、博多の風の事はもちろんですが、幹事の皆さんの日常や家庭のことなどを聞かせていただいています。そういった時間を共有することで、年齢を問わず、幹事の方それぞれの考え方を知ることが出来ます。そうして、通常では作ることのできない、町内以外の人間関係を作ることができているように感じています。

■最後に

もともと地域の行事であった山笠に対して私のような外から来た人間が参加できるのは、ひとえにこれまでの先輩方の努力のたまものであると思います。時代に合わせて、変化することは変化し、守るべきところは守っていくということが山笠を778年続けられた要因だと思います。これからは私たちが先輩となつて後世に山笠というものを残していけるように頑張っていきたいと考えています。

報告

平成三十一年度 NPO博多の風 総会

平成三十一年度 2月16日(土)開催

各担当理事および幹事の出席のもと、野中理事の司会で開催されました。「平成30年度事業報告・決算・監査報告」および「平成31年度事業計画・予算審議」、「役員人事」について審議を行い、全ての議案について承認されました。



■理事長より
 博多の風を作った理由は、山笠に参加する人や力が少しでも他人の役に立てるようにならなければならない。博多の風の活動は、フォーラム、コース探訪、楽文と3つの柱で行っているが、この活動が少しずつ認知され、博多の人や各機関からも認められるようになってきた。あらためて続けていくことの大切さを感じている。

平成31年度体制

- ◎理事長 大庭 宗一
- ◎副理事長 因幡 敏幸
- ◎理事 大庭 信雄
 松本 昭久
 野田 輝幸
 野中 雅治
 村岡 昌哉
 中田 修
 中川 謙二
 山口 覚弘
- ◎監事 金子 俊明
 板谷 益男
 後郷 光信
- ◎顧問 太田 勇之助
 福田 一男
 平井 彰

賛助会員募集中

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お近くの博多の風の幹事か下記までご連絡ください。

一般会員
 一口 1,000円(年間)

特別・法人会員
 一口 10,000円(年間)

(一口以上、何口でもお申込みいただけます。)

お問合せ先
 「NPO博多の風」広報企画(担当:山口)
 E-mail info@hakatanokaze.jp
 FAX 092-263-7188

大庭宗一の大人気エッセイ

シリーズ第10弾 好評発売中



「明日への一言。10」
 熱いメッセージがいっぱい詰まったエッセイ集です
 定価600円(税込み)

ホームページからも購入できます。
 URL <http://hakatanokaze.jp>

編集後記

時代の節目に差し掛かる現在は平成31年春。昨年末あたりからよく、「平成最後の〇〇」という言葉が耳にしました。この風人も今号で「平成号」は最後となり。会員のみなさまのお手元に届くのは新元号が発表されている頃でしょう。さて、博多祇園山笠は既に平成最後の山笠を終え、今年が新元号での奉納となります。どんな影響があるか、編集の手を止め、ふと考えるようになりました。細かな事を挙げだすとキリが無いですが、5月の特大連休で仕事のお休みの調整が難しくなりそうだな。こは私含めサラリーマンの山のぼせさん達が四苦八苦するのぼせになりそうです。単純に休みが多いことはなんだから嬉しいですが、果たして5月に10日も休んで7月に固まった休みが取れるのか。例年以上に早め準備の準備が必要になってくる。日本にとつても山笠にとつても一大事と言えますが、山笠の本質が変わることはありませぬ。むしろ時代に合わせて変化・進化し続けることを778年にわたり伝統を築き上げてきたのが博多祇園山笠です。新しい時代も様々な困難・変化に対応して大好きな山笠を続けていくために日々の努力を積み重ねていきたいと思います。

(大浦 晴彦)